人口減少を見据えた施策を推進

市長所信表明

▲市内のソーラー施設

12月定例会は、令和2年9月の選挙後、初めての定例会であったため、市長の所信表明が行われました。

所信の中では合併時に約束していた事業は概ね計画通り進めることができた。今後人口減少が続くとしても、将来を見据えた施策を進め、持続可能な行財政運営をしていく。そのために、「健幸都市たかはし」を都市像とし、「つながりから創る心豊かなまちづくり」を基本理念とする次期総合計画を策定するとの発言がありました。

一般質問では、今後の重要施策について問われ、市長からは、災害からの復旧復興は大前提として、定住、地域医療、光ケーブル網敷設による情報化、住民がふるさとに誇りを持つことができるような施策、図書館のさらなる活用、就学前教育から高等教育までを一貫して充実させていくこと、地産地消、農業従事者の支援等であるとの答弁がありました。

また、新エネルギーの利用促進について質問があり、バイオマスにしても太陽光発電にしても自然由来のエネルギーに転換していくという方針であるとの説明がありました。

「再び世界一の教育村」を目指して

有漢地域の学校再編

有漢地域には、東小・西小・有漢中があります。令和元年8月有漢地域（有漢の教育を考える会・まちづくり協議会・3校の保護者等）から義務教育学校として一貫した教育を行うよう要望書が出されました。これにより、高梁市教育委員会と有漢地域の代表による「有漢地域の学校再編準備委員会」が設置され、令和元年10月以降4回の会議を重ね、市議会全員協議会に計画案が提示されました。これによると令和4年度東小・西小統合、現在の有漢中グラウンドに校舎建設、令和7年度「有漢義務教育学校」開校予定となっています。

「英語力」「地域ふるさと学習」「陰山メソッドによる徹底反復学習」等がグランドビジョンに入っています。100年前の「世界一の教育村」の復活が期待されます。

▲有漢東小学校

▲有漢西小学校

陰山メソッド　百ます計算、漢字の集中学習、音読指導を三本柱として、そこから多様に思考する学習方法。

コロナ禍の影響でふりだしに

旧朝霧温泉「ゆ・ら・ら」跡地活用事業

令和2年5月13日に、市では、株式会社エヌディエスと優先交渉権の覚書を締結し建物等の譲渡契約に向けた協議を進めてましたが、エヌディエス側から、11月11日に優先交渉権を辞退する旨の申し出がありました。辞退の理由は、コロナ禍において、今回の募集条件では当初の事業計画を実行できないこと、電気機械設備等の不具合が想定以上だったことが挙げられています。

株式会社エヌディエス側からは、今回の募集要項の条件下では辞退するが、内容を再検討の上、再度提案したいとの意向も伺っています。

周辺地域の活性化につながるように、今後、再募集も含め検討を進めたいと考えていると定例会初日に執行部から報告がありました。

12月定例会が開催されました

令和2年12月7日から24日までの18日間、令和2年第8回12月定例会が開催され、市長からは議案12件が提出されました。

議案を大きく分けると、関係省令の改正に伴う条例改正と総合計画基本構想、また各補正予算においては、人件費に関するものと、ふるさと納税、新型コロナウイルス対応の支援金・物品購入・施設整備等、さらに平成30年と令和2年豪雨災害復旧費、教師用デジタル教科書の導入費用等が大きなものでした。

また、議案ではありませんが、選挙後初めての定例会であり、市長の所信が述べられたことについても活発な質疑がありました。

各議案については、各担当する委員会においてもより詳細に至る審査も行われ、結果としては慎重審議の末、全ての議案を原案のとおり可決としました。

討論

私は、今議会に提出された全ての議案につきまして、委員長報告を了とし、賛成の立場から討論する。

コロナ禍により、雇用不安が深刻化し、中でもひとり親家庭の生活不安は増大している。市の対応は、財政も厳しい中で、市内各種企業、自営業者の経済対策、個別の家庭への生活支援は、間断なく実行していかなければならない。人口減に伴う市民生活の安定を要請する。

議案第94号の市の総合計画の策定については、「高梁市総合政策審議会」井勝久喜会長の附帯意見や、地域説明会、パブリックコメント等を充分に反映し、高梁市の2030年へむけた羅針盤となり、市民にも具体的に見える計画にしていただくように要請する。

（金尾恭士）

議案第95号には反対、その他の議案に対しては賛成の立場から討論する。

「まいにゃんぱー商品券」発行に関わる補正予算は、11月臨時議会で議決された。その際、質疑において、困窮する中小業者支援と、市民の近いところに出向いての手続きを行うとの説明があり、賛成した。しかし、町内会や市民センターに出向いての対応がなされないのであれば、普及率が低くなり、市民全体への支援となり得なくなるため反対する。補正予算は長引くコロナ禍のもとで、換気設備等の新設修繕や、支援延長の関連予算が計上されているが、周知が十分でないものもあり、機会を通じて周知徹底を要望する。

（小柴健男）

12月定例会で賛否が分かれた議案の議決結果

○賛成　●反対

件名	金尾	平松	新倉	小柴	伊藤	森	森上	石井	石田	石部	三村	宮田好	小林	倉野	川上修	川上博	大月
議案第95号令和２年度高梁市一般会計補正予算（第10号）	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○

※議長は採決には加わりません。　※他の議案は全会一致で可決しました。